

市民活動団体の現状 問題点を考える



1班

土屋、鈴木(愛)、芹沢、鈴木(喜)、吉福南(コーディネーター)

組織

- ・古い組織に束縛されない社会参加を求めている
 - ・自由に参加する活動との対立
 - ・連帯感がとぼしい
 - ・社会福祉協議会がコーディネート機能していない
 - ・ネーミングが悪い
 - ・組織の目的が時代に合わなくなってきた
 - ・人材不足
 - ・呼びかけても参加してくれない
 - ・婦人会の減少
 - ・人数(会員数)の減少はなぜか?
 - ・経済的に恵まれてきている
- ⇒ 市民団体のネットワーク化が必要

情報

- ・情報活動を活発にする(PR)
 - ・情報交換する場がない
 - ・市民団体の情報不足
- ⇒ 協働まちづくりについて一般の人に理解してもらうPR 広報が必要
- ⇒ 市民団体の他地区との情報交換

財源

- ・体育協会がエコマネーによる協働システム
- ・自主財源の確保

行政との関わり

- ・行政の支援がなくなってきた
 - ・企業と行政との協働が大事
 - ・行政との温かい話し合い
- ⇒ 1つの団体が行政のいろいろな課と関わりをもっていけば、活動の場も増えていく

現状

- ・馬術場の受託
- ・わらび会28年活動
- ・料理教室への男性の参加(意識改革)



市民活動団体の現状 問題点を考える



2班
佐藤、近藤、林、関田、大塚、沓間
山本（コーディネーター）

情報

- どのような市民活動があるのか、多方面に知られていない
- 活動分野が限定されがち（まちづくりの計画作成等、すぐに成果が現れない分野には関心が続かない）

提案

- 市民活動の内容や活動スケジュールなどをインターネットでPRしたら？
- 大野原の芝焼を市外にアピールして、市の年間行事に入れてはどうか
- 市民活動の冊子をつくりPR
- 各団体のPR、アピールにより市民一人ひとりの必要性等の意識を高める

モノ(施設)

- 施設の建設には利用者の声を生かしてほしい
- 公民館、児童館でいつも活動できる場をつくる環境をつくっておいてほしい（申し込まなくても、その施設に行けば子供の遊びが出来るような）
- 公民館行事でお年寄りが増えているので、会場に入りきらない

人

- 行政依存型が多いのではないか（自主自助努力が必要）
- 子供会の役員えらびが難航する（女性も仕事を始め、世話人や上の役をする人が少ない。現状では無理強い）
- 地域防災（消防団）に大変だからと言って参加しない
- 若者が団体活動をしたくても、楽しい生活を優先し、組織をきらう
- 地域の交流に若年層が無関心
- 新たな活動や組織作りの際、リーダーが出にくい（区長さん等になりがち）
- 活動する人が少数の人になりがち 不特定多数の人の参加が必要
- 価値観の多様性を理解尊重する気風を持つこと。人間尊重、個性の重視が基本である
- 市民団体、活動相互間の参加・協力・共同企画実施などが不十分。育たない。

提案

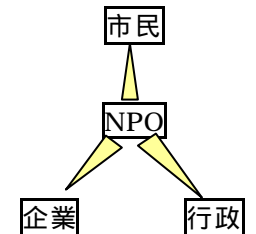
- 『声かけ運動』子供達のあいさつ運動は大人からの声かけをしよう。
- 子供会は行事をこなすだけでなく、子供のしつけ、教育的な観点も考え、行動していく（例：あいさつをする子供たちにあるテーマを掲げ、1年間活動する等）
- 公民館まつりや公団まつりに実行委員会を組織し、若い力を借りよう
- 学校サポーター制度に地域の方々（退職した人やノウハウのある人）の参加を募り、先生役やサポーターになってもらう（ボランティア又は有償で）
- 地域防災に中学生の参加を望む。中・高生の若い力は地域の力である。

金

- 若年層の地域活動について、区・行政が非協力的（資金面、人）
- 福祉会館（多目的交流センター）の窓口相談などのボランティアに参加したいが、バス代の配慮を。

連携 評価

- 地域活動についての評価がない
- 災害時の弱者救済システムは、行政との連携が必要な時期なのに足並みがそろわない
- 目指すべき協働の方向として、ベンツ型の協働体制を意識したい。企業との連携に力を入れるべき



市民活動団体の現状 問題点を考える

会員の高齢化・固定化

- ・参加者の減少
- ・会員の減少（婦人会）
- ・特定の活動市民に限られ、拡大していかない
- ・地域の婦人会がない所がある
- ・老人介護ボランティアは、グループの高齢化により活動する人が少なくなる
- ・地域福祉高齢者サロンは、男性の参加がない
- ・活動がマンネリ化している
- ・年々高齢化と活動の減少が目立つ

- ・コミセン、公民館に活動等の掲示をする
- ・各市民団体活動の情報を把握する団体が必要 インターネット、WEBの活用
- ・携帯電話で情報発信する
- ・HPを設置する
- ・時代に合わせた活動に変えていく
- ・ボランティア貯金

連携

- ・ボランティア間のつながりをする人がほしい
- ・活動の目的などが不明確 PR不足、無関心

・目的によっては、横のつながりはなくてもよい

人材（若手）

- ・若い人が入らない
- ・魅力がない
- ・若い層の関心の問題
- ・リーダーの問題
- ・消防団に入団（協力）してくれる若者が少なくなっている 定員割れ
- ・自分のライフスタイルを崩してまで、市民活動に参加しなくても生活に困らない

・区長、民生委員による声かけ

😊 3班

佐々木、神保、田代、小林、三井
鈴木（雄）（コーディネーター）

拠点

- ・活動拠点が無い

- ・空き教室の開放
- ・ボランティアの打合せ場所（ボランティアルーム）
- ・Be Oneビルを開放する
- ・拠点としての市施設に無料開放の可能性は？
- ・多目的ホール計画中（H16～19）

資金

- ・資金がない
- ・活動や資金の作り方のアドバイザーがいない

- ・公の委託事業を受ける
- ・委託可能な事業は積極的に民間委託し、NPOの活動資金の原資とする
- ・団体で何度もお願いに行く ・政策提言
- ・受益者負担を求める ・企業の資金援助など
- ・実績と市への貢献度をアピールし資金確保